



第64回定時株主総会のご報告

グランドプリンスホテル新高輪「国際館パミール」(東京・港) で6月22日、過去最多となる3,230名の株主の皆様にご出席いただき、午前10時に開会しました。質疑応答の時間には、12名の株主様よりご質問や貴重なご意見を承り、その後、「剰余金処分」「定款一部変更」「取締役17名選任」「監査役2名選任」の4議案が承認・可決され、12時09分に閉会しました。質疑応答の一部をご報告いたします。



第64回定時株主総会

Q&A

Q 空港使用料の値下げに向けて、どのような対策を講じているのですか。

A 日本の空港使用料は、近隣のアジア諸国と比べて、2～3倍と割高になっています。そのため、業界団体の定期航空協会を通じて、国土交通省や関係機関に対して陳情や要請行動を行った結果、若干の減額も実現しました。国土交通省交通政策審議会航空分科会でも、着陸料等の空港使用料体系の見直しの答申が出されていますので、引き続き要請を続けていきたいと考えています。

Q 海外から日本への旅行者を増やすために、どのような需要喚起策を実施しているのですか。

A 日本は、少子高齢化が進み、各地で新幹線が延伸しますので、当社は海外からの需要を取り込む必要があります。これまでも、アジアのお客様を対象に、さっぽろ雪まつりや東京ディズニーランドのツアーを設定してきましたが、2010年の首都圏空港拡張を機に、世界中の人々が成田や羽田からスムーズに日本各地に旅行していただけるように、さらなる利便性の向上に取り組んでいきます。また、2009年4月に日中間で運賃が自由化し、中国の個人ビザも解禁(2009年7月実施済)されますので、需要喚起に努めていきます。

Q 貨物事業の「沖縄ハブ構想」について教えてください。

A 当社は現在、6機の中型貨物機と約200機の旅客機の床下貨物室を活用して貨物事業を展開しています。「沖縄ハブ構想」については今後、那覇空港を拠点として、アジアの主要都市、あるいは日本の羽田、成田、関西の各空港から沖縄に向けて深夜に貨物便を運航し、那覇空港で迅速に貨物を積み替え、翌日の早朝までに日本各地やアジアの主要都市に輸送する路線ネットワークを構築していきます。さらに、強みである那覇空港での迅速な通関と、同空港から18路線就航している国内線旅客便への接続による国内地方都市向けのスピーディーな貨物輸送サービスが可能となります。沖縄ハブを通じて、日本からアジア、アジアから日本、それから成長著しいアジアからアジアへの、競争力ある貨物輸送ネットワークを展開していきます。

頂戴したご意見などを参考にさせていただき、より一層のサービス改善や業務効率化に取り組んでまいります。株主の皆様には、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。